

令和3年度 合志市社協「スペーシアれんが」 事業所職員における自己評価結果

公表： 令和4年3月25日

事業所名： 合志市社協「スペーシアれんが」

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	9	6	3	<ul style="list-style-type: none"> ・建物は指定基準以上の面積。今ある環境のなかで子どもの特性、活動プログラム、感染管理の観点から適宜部屋の用途や動線を検討しながら支援を行っている。 ・屋外活動(畑や屋外の敷地、近隣の牧場など)や部屋を分けたグループ活動を取り入れ、療育の向上やスペース確保に努めている。 ・パニック等によるクールダウンの対応について、専用の部屋はないが、適宜場所を確保して個別対応を行っている。
	2	職員の配置数は適切であるか	10	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・指定基準に準じて、保育士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、公認心理師、教員免許状保持者等の有資格者を配置している。 ・長期休暇時はより手厚い支援を行うために、臨時的に職員の加配を行っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	11	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的トイレの数や広さなど、ハード面の課題はあるものの、子どもへ負担がかからないよう、状況に応じて適宜対応している。 ・環境整備について、今年度はたいようの部屋に車いす対応洗面台を設置し、身辺自立の支援強化を図った。また、事故防止のために、引き戸のレールを刷新した。多目的トイレ内のアーム設置を検討したが、操作性の観点より導入は見送った。 ・バリアフリー化のみならず、今後も必要に応じて構造化等の視覚支援について検討し、子どもたちの過ごしやすい生活空間となることを目指していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	5	11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の事前／事後ミーティング、定例職員ミーティングにて、業務内容やその改善に関する話し合いを行っている。 ・①療育環境、②安全管理、③美化感染、④給食の4つのチームに分かれて業務改善に取り組んでいる。その内容の実現に向けて、進捗状況を可視化するなどのタスク管理に努めている。 ・全職員が共通認識をもってPDCAサイクルに参画することが今後の課題であり、そのための研修等を検討していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	12	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回、保護者アンケートの実施のほか、意見箱を設置するなど、保護者の要望把握に努めている。 ・いただいた意見は職員ミーティングや回覧等で情報共有し、要望の具現化や業務改善に取り組んでいる。 ・例年、アンケート結果は保護者説明会にて説明し、その解決に向けた取り組みに関しても伝達している(今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保護者説明会は未実施。インターネット上での公開について周知を図った)。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	15	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・合志市社会福祉協議会ホームページ内に公表している。その旨を保護者にも周知している。

	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	12	5	1	・今年度は第三者評価を受審する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、次年度に延期となった。受審結果を踏まえ、サービスの質の向上や改善に向けた取り組みを継続していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	17	1	0	・年間研修計画を策定し、全職員が均等に外部研修にも参加できるよう、勤務調整を行っている。今年度は深めていきたいテーマを選定し、事業所内勉強会を企画することにより、専門性の向上に努めていきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	13	4	1	・担当者会議や児童・家族面談によりニーズや課題を把握したうえで、担当職員(担当者、機能訓練、児童発達支援管理責任者)の協議の元、個別支援計画を作成している。また、その計画立案の前後に個別支援会議を開催し、内容の検討とともに不参加の職員への周知に努めている。 ・次年度はアセスメントシートの有効活用について検討していく。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	10	6	2	・主に観察法に基づいてアセスメントを行っている。各職員の主観が入りやすいこともあり、観察する行動や場面をあらかじめ決めたり、また複数の職員で観察することで、より客観的なアセスメントができるよう努めている。 ・事業所独自のアセスメントシートはあるものの、有効活用の検討が今後の課題。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	15	3	0	・月毎に担当者が月間活動の概案を作成し、それに基づいて当日のリーダーが活動プログラムを考案している。子ども一人ひとりの障害特性や個別支援課題について職員間で共有し、より適切な支援につながるよう全体で活動プログラムの立案に参画している。 ・今後も子どもの特性に応じた活動プログラムを設定し、支援の視点(ねらいや目標、配慮点)の明確化を図っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	15	3	0	・「作業、学習、運動、園芸、制作」の5つのメインの活動のほか、ソーシャルスキルトレーニング、家事体験、音楽など多岐にわたっている。また、感染予防策を講じながら、季節行事や地域行事への参加、ボランティアとの交流など、さまざまな活動プログラムを取り入れている。 ・歯科衛生士による歯科教室(歯みがき指導)、ストリートダンス教室など、外部講師による多彩な活動を企画している。今年度は新たに管理栄養士による栄養教室を実施した。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	13	3	2	・昨年度に引き続き、感染予防を考慮しながら、利用者数、活動スペース、活動時間に応じて活動プログラムの立案を行った。 ・休校日には季節行事や地域行事を多く取り入れているほか、可能な範囲で個別支援課題に応じた療育に取り組んでいる。一人ひとりの課題を可視化するための活動計画表を用いて支援を行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	15	2	1	・集団活動をメインにしながらも、適宜各々の支援課題に取り組む個別活動の時間を設定するなど、個別支援計画の達成に向けた支援の充実化に取り組んでいる。 ・個別支援計画に記載されている課題について、職員集団で共通認識を持って支援にあたるよう、ミーティングの改善やプログラム立案を行っている。

	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	17	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの来所前に職員ミーティングを行い、活動内容や職員配置、送迎、子どもの前回利用時の様子等の確認を行っている。 ・今年度は支援前の準備やミーティングの強化を図り、更なる質の向上を目指していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	16	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・支援終了後にも職員ミーティングを行い、ケース記録を参照しながら療育内容や子どもの様子、ヒヤリハット等の振り返りを行っている。また、それらに加えて、家庭からの連絡事項等をケース記録や申し送りノートに記入し、当日不在の職員にも伝達・共有できるようにしている。今後も継続する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	14	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の子どもの様子に加えて、個別支援計画を意識した記録作成を心がけている。日々のミーティングではその記録を参照し、活動プログラムや個別支援を検討している。 ・次年度は支援におけるPDCAサイクルを意図した記録様式について検討予定。 ・今後は基本的な記録だけでなく、身体拘束など虐待・権利擁護を意識した記録の取り方について理解を深めていくことが課題。
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	17	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも半年に1回個別支援会議を開催し、職員全体で個別支援計画の支援内容や達成度、今後の課題について振り返りを行い、再計画の必要性について検討している。今後も継続する。 ・PDCAサイクルを可視化したモニタリング(評価)表を運用し、個別支援の質の向上に努めている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	10	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドライン総則にある4つの基本活動を複数取り入れた支援を行っているが、ガイドラインに関する理解を深めたり、その内容を意識した支援展開ができるよう、年に1回は通読による再確認の機会を設けていく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	17	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者の出席を原則としているが、各担当者(保育士、児童指導員、看護師)、機能訓練(理学療法士)も出席できるよう、可能な範囲で業務調整を行っている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	17	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、年度初めの各支援学校への訪問、学校主催の事業所連絡会出席などを通して、学校との連携体制構築に取り組んでいる(今年度は感染拡大の影響により訪問は未実施)。次年度は当該年度の「利用のしおり」を各学校に配布予定。 ・学校への送迎時、子どもの様子や支援経過等について情報共有を行っており、今後も継続する。 ・地域の小・中学校は各校で対応も異なるため、それぞれの学校と連携のあり方について協議していくことが今後の課題。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	13	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアが必要な子どもについて、主治医の指示書に基づいて適宜対応している。今年度はより密な保護者や医療機関との連携体制の構築を目的に、医療的ケアに関する書類を刷新した。 ・現在、家族を介して医療機関と連携を取ることが多く、必要時には医療機関でのケア会議に出席し、主治医と連絡体制について協議するなど、引き続き体制整備に取り組んでいく。

	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	12	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・主に新規利用に伴う、相談支援事業所主催のサービス担当者会議へ出席し、これまでの関わりのあった関係機関への情報収集を行っている。 ・サービス担当者会議に出席されない関係機関にも電話連絡にて情報収集するなど、新規受け入れに当たって子どもの理解を深めるよう努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	13	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・主に相談支援事業所主催のサービス担当者会議へ出席し、これまでの個別支援の経過や当事業所での本人の姿などについて、情報提供を行っている。今後も継続するとともに、必要に応じて利用終了後も情報提供を行うなど、各障害福祉サービス事業所等との連携を深めていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	16	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害者支援センターや菊池圏域地域療育センター等主催の研修に積極的に参加している。また、事業所での研修の講師としても招聘している。 ・今年度は「重心児の支援の向上」を目標に、熊本県子ども総合療育センターの事業所支援を受けてスキルアップに取り組んだ。 ・困難事例等の個別ケースについても相談・助言が受けられるよう、専門機関との連携を図っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	10	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・同法人内に放課後児童クラブや児童館があることもあり、主に長期休暇中の季節行事(クリスマス音楽祭やもちつき大会など)を通して、地域の子どもたちと交流する機会づくりを行っている。 ・今年度は感染拡大防止のために大きな行事は実施できなかったが、時折交流の機会を設け、それぞれの児童の育ちあいの場となることを目指している(ソーシャルインクルージョン)。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	6	9	3	<ul style="list-style-type: none"> ・菊池圏域の協議会(子ども部会)に管理者や児童発達支援管理責任者を中心に出席している。 ・協議会にて検討されている地域課題やそれに対する地域の取り組みについて、全職員が理解を深めていけるような取り組みを検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	16	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や電話連絡、送迎時の面会など、日常的な家庭とのやり取りのなかで、子どもの状況や発達課題に関して共通理解できるよう努めている。 ・今年度は事業所内での家族面談や家庭訪問を定期的を実施し、家族支援の強化に努めた。各家庭の子育てを支援できるよう、今後も家族支援体制を整えていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	8	7	3	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、活動プログラムの一環としてペアレント・トレーニングは行っていない。保護者へは日常的な関わりのほか、家族面談や家庭訪問を通して子どもへの対処方法等、子育てに関する相談支援を行っている。 ・今後も適切な子どもへの対処方法を家族へ助言できるよう、職員の支援のスキルアップを目指していく。
保護者への説明	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	15	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・新規契約時や障害福祉サービス報酬改正があったときなど、利用契約書や重要事項説明書に基づいて説明を行っている。今年度は報酬改定内容を踏まえ重要事項説明書を改訂し、個別面談にて説明している。 ・年度初めには「利用のしおり」を各家庭に配布し、利用にあたっての留意事項等について周知している。

明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	13	5	0	・保護者へは日常的なかかわりのなかで、子どもの様子や発達等について共通認識を図るとともに、子どもへの対処方法等、子育てに関する相談支援を行っている。今年度は家族面談を重点課題として位置づけ、家族支援の強化に取り組んでおり、今後も継続する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3	13	2	・例年、年1回保護者会を開催しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より未実施。 ・内容は活動報告など事業所からの報告や説明が中心であり、保護者同士の連携という点では課題が残っている。ウィズコロナ時代の保護者間の連携を支える新たな仕組みを模索することが次年度の課題。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	15	3	0	・要望や苦情について、苦情受付担当者、苦情解決責任者を配置し、適宜対応している。 ・その都度職員ミーティングにて対応を検討し、その内容を書面に落とし、全職員が共通認識してその後の対応ができるよう情報共有を行っている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	18	0	0	・毎月スペースアれんがだより(A3サイズ)を発行し、子どもの様子や活動内容、療育の取り組み等に関する情報発信を行っている。今後も子どもたちの笑顔や様子が分かる写真を多く取り入れ、また専門職による情報提供のコーナーを設けるなど、内容の充実化を図っていく。
	35	個人情報に十分注意しているか	18	0	0	・「個人情報取扱い業務概要説明書」に基づいて家庭へ説明し、書面にて同意を得たうえで個人情報管理している。また、日常業務においても各職員が意識的に書類等の取り扱いに留意している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	17	1	0	・個別支援計画について、子ども用と保護者用とに分け、子ども用には理解度に応じてルビを振ったり、使用する文言等を変更するなどして、合理的配慮に取り組んでいる。 ・子どもや家族との面談も定着している。理解しやすい書類や相談支援体制を整備するなど、今後も事業所としてアカウントビリティを果たせるよう、取り組みを進めていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	13	5	0	・例年、毎月1～2回、定期的にボランティアの方に来ていただくほか、民生児童委員等を季節行事に招待するなど、地域に開かれた事業運営を行っている。 ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、そのような交流の機会は減少しているが、子どもたちによるメッセージカードの配布など、可能な範囲で地域交流の機会を設定している。 ・3月に『れんがのなかまたち展』を開催し、多くの地域住民にご参観いただいた。 ・運営主体が社会福祉協議会であり、社協内の他課とも連携した地域福祉推進の取り組みについて今後も検討を進めていく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	16	2	0	・各マニュアルを策定し、安心・安全に利用できるよう適宜対応している。職員全体でのマニュアルの共通理解、また情勢に応じた内容の改定に取り組んでいく。 ・感染管理に関する取り組みや緊急事態発生時など、公式LINEアカウントを活用してタイムリーに情報発信し、家庭との連携を図っている。 ・各マニュアルに関する保護者への周知が課題であり、情報発信のあり方について検討していく。

39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	18	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・合志市社会福祉協議会消防計画に基づき、年2回避難・防災訓練を行っている。今後も継続する。 ・職員研修にて、合志市社協事業継続計画(BCP)に関する学習も併せて行った。
40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	18	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の入職時に虐待防止に関する研修を行うほか、年1回は全職員対象に同様の研修を開催し、権利擁護に関する意識向上に取り組んでいる。 ・今年度は他事業との協働による権利擁護委員会を設置して、虐待防止や適切な身体拘束のあり方に関する取り組みを行った。また、委員会より県主催の虐待防止研修に参加して、全職員へその内容周知を図っている。
41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	16	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・多動・衝動性の強い子ども、パニック等による自傷他傷の可能性のある子ども等に対して、個別支援計画のなかで、身体拘束等の適正化に関する内容を記載し、保護者の同意を得たうえで個別対応を行っている。 ・今年度は他事業との協働による権利擁護委員会を設置して、虐待防止や適切な身体拘束のあり方に関する取り組みを行った。 ・次年度は身体拘束等を行う場合の記録様式について再考し、権利擁護に関する職員の意識向上に努めていく。
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	15	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師を中心に家庭よりアレルギーに関して情報収集し、その内容を管理栄養士等の他職種も共有しながら、食事やおやつを提供を行っている。 ・現在、家庭へ病院等での検査結果の提出を依頼し、それに基づき対応している。次年度は医師の指示書を新たに作成し、それに基づいた危機管理対応が行えるよう、各家庭へ協力を求めている。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	17	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のミーティングにおいて、小さな事例でも意見にしたり、記録に落とすことの徹底を通して、職員の意識向上を図っている。 ・安全管理チームがイニシアチブを取り、レポートや報告書を踏まえてヒヤリハットや事故の再発防止に向けた取り組みを検討している。全職員がそれを情報共有できるよう、今後も取り組みを継続する。 ・今年度は他事業との協働による安全管理委員会を設置し、支援の質の向上、安全性の確保のための活動を実施している。